

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2810 号	氏名	池園 圭子
審査担当者	主査	内村 直尚	(印) 村 安
	副主査	安陸 繁思	(印)
	副主査	山本 宏一	(印) 山 本
主論文題目： 睡眠時呼吸障害患者における腹部脂肪と咽頭脂肪の沈着パターンと臨床症状の関係について			

審査結果の要旨（意見）

SDBの病態を咽頭脂肪と腹部脂肪の関係という新しい観点から解明を試みた活発的な研究である。
 内臓脂肪がSDBと関連していること、内臓脂肪と咽頭脂肪に関連がある可能性があるという点が大変良かった。
 今後更に研究をすすめることで、SDBに対する治療の指導に役立つであろう。

論文要旨

睡眠時呼吸障害（SDB）は夜間睡眠中に呼吸が不安定化ないし停止する病態であり、その発症要因として最も大きいと思われるのが肥満である。肥満による上気道の閉塞に関わる要因として舌、咽頭周囲の脂肪組織などがある。肥満による腹部脂肪の増加に比べ、咽頭脂肪はどのように増加するのか報告例が少ない。本研究では、腹部脂肪と咽頭脂肪の関連性を検討することで、SDBの病態の解明を目的とした。方法としてSDB患者20例と対象例10例の咽頭脂肪と腹部脂肪を単純CTで計測し算出した。その結果SDB例では比較的肥満度（Body Mass Index, 以下BMI）が低い例でも内臓脂肪優位の例が多く、対象例では皮下脂肪優位の例が多かったことから、SDB例では腹部脂肪の沈着パターンが異なる可能性が示唆された。またSDB例ではBMIが増加するにつれ咽頭脂肪の割合は減少していたが、対象例ではBMIの増加につれ咽頭脂肪の割合が増加する傾向があり、SDB例と対象例では咽頭脂肪の沈着パターンが異なる可能性がある。またSDB例ではAHIが上昇しても咽頭脂肪の割合は減少していたことから、SDBの重症度を規定する脂肪沈着は、咽頭脂肪以外の舌自体や舌根部の脂肪などの関与が大きいと考えられた。